

## 聖ラ・サールの日 (2025.5.16)

2025年5月16日(金)の6・7限目、ヨセフホールにて今年度の聖ラ・サールの日の催しが行われました。

例年、講演会や映画上映が実施される聖ラ・サールの日ですが、今年は噺家・柳家三三(やなぎやさんざ)さんをお呼びしての落語会となりました。

本校では毎年観劇会を行いますが、なかなか生の落語に触れる機会がありません。創立30周年の聖ラ・サールの日記念行事以来、実に45年ぶり、創立75周年記念の落語公演となりました。

柳家三三さんは、古典落語の実力者として寄席やTV等で大活躍されている噺家さんで、人間国宝の故・柳家小三治さんのお弟子さんです。実は本校30周年の記念行事で高座を務めてくださったのが小三治師匠(当時の音楽科教員で、落語好きの森川諄一先生が依頼したようです)だった、という縁もあり今回お招きしました。

登場人物の演じ分け、噺のオチのつけ方、扇子と手拭いを使った所作等、落語の特徴についての説明を織り交ぜながら、知ったかぶりの和尚といたずら者の小僧さんのドタバタが愉快的「転失気」、貧しい浪人が仏像を売ったことをきっかけに、揃って正直者の浪人、くず屋、若侍の間で思いがけない騒動が展開する「井戸の茶碗」の二席を口演されました。生徒たちは、リズムカルな語り口と巧みな人物描写に引き込まれ、幾度となく大きな笑いが巻き起こりました。

最後に三三さんから「なんでもインターネットで簡単に検索できる時代ですが、ぜひどんなものでも生のものに触れる体験を大切にしてください。」とご挨拶がありました。1時間半、本物の話芸にたっぷり浸った聖ラ・サールの日となりました。

